

嘔吐反射のある患者さんが来院した際に 歯科衛生士がチェック・対応すべき項目

嘔吐反射のある患者さんに対応するとき、シーンごとにチェック☑しながら行いましょう。
一つひとつ確認して、嘔吐反射を最小限に抑えるフォローをしましょう！



Scene 1 来院前



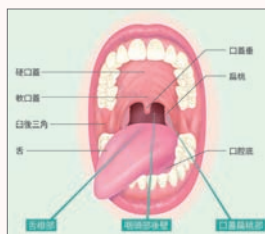
～患者さんToDo～

- 数日前より刺激物を控えてもらう
✗ タバコ、コーヒー、すっぱいもの
 (柑橘系のジュース類など)、油っこいもの など
- 精神安定剤を服用している人は事前に服用してもらう
- 水分を十分摂って、口の中が乾燥しないようにする
- 歯科医師の指示のもと、半夏厚朴湯^{はんげこうぼくとう}を服用してもらう



～歯科衛生士ToDo～

- 印象採得などをする日の前の来院時は、触れると反射を起こしやすい部位を、指やミラー、歯ブラシなどで確認しておく
- 既製トレーの試適をすませておく



嘔吐反射を誘発しやすい3つの刺激部位



Scene 2 診療前



～歯科衛生士ToDo～

- よく話しかけることで、リラックスしてもらう
治療内容を説明し、安心してもらう
- ティッシュやタオル、ガーグルベースンをあらかじめ準備する
- 歯科医師の指示のもと、表面麻酔^{せんめんま酔}や笑気吸入鎮静、静脈内鎮静の準備をする
*表面麻酔薬はジェル状のタイプが塗りやすい
- 嘔吐反射が起こりにくくなるツボ「天突^{てんとつ}」を患者さん自身にゆっくり指で押してもらい刺激する
*天突：首のすこし下、左右の鎖骨の間のくぼみ

痛くありません。
安心して下さい。



Scene 3 診療中



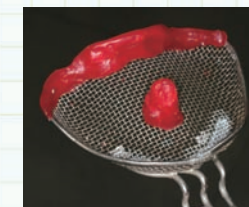
～歯科衛生士ToDo～

- よく話しかけて気分をそらし、リラックスしてもらう
- 鼻から息を吸い口から出すように深呼吸してもらう
- 患者さんが吐き気を感じたら、足をすこし上げて腹筋に力を入れてもらう*
*腹筋に力が入ると、脳の一次ニューロンである延髄が刺激されて軽い呼吸抑制が起き、反射が抑えられる



★ アルジネート印象採得時の6つのポイント ★

- 1. ジェル状の表面麻酔薬を、軟口蓋から扁桃部にかけてと、舌根部に塗る
- 2. 吐き気を感じにくいほう(通常は下顎)から印象採得する
- 3. 上顎では後方に印象材が流れにくいように、ユーティリティワックスでトレー後縁に堤防を作る(右図)
- 4. 印象材は硬めに練り、トレーに必要最小限盛り、作業時間を短くする。混水比は標準より少なく、水は常温とし、印象材の硬さと硬化時間を調整する
- 5. 上体を起こして座位とし、顔を下に向けゆっくり鼻呼吸してもらい気道を確保する
- 6. できるだけ閉口位で印象材の硬化を待つ



*本チェックシートの著作権は医歯薬出版株式会社に帰属します。ダウンロードしたチェックシートは本誌購入者自身の臨床目的にのみご使用ください。なお、筆者および医歯薬出版株式会社は本チェックシートの使用に起因する被害および損害に関する一切の責任を負いません。